

千島連盟別海町支部・青年部通信 No.46

2008(平成 20).11.27 発行

後継者代表者活動促進全国会議・セミナー10/18, 19札幌

全国から27名が参加、別海町支部からは池田副部長、大橋副部長、推進員が出席しました。

1日目は産経新聞東京編集局長の斉藤勉氏による講演「国際情勢と今後の課題」および分科会が行なわれた。(斉藤氏の論旨は資料をご覧ください)

2日目は内閣府の山本参事官より後継者対策事業および新造渡航船について説明の後、分科会の発表と意見交換を実施した。

意見交換においては「長いスパンで返還運動をしたら」「第二の後継者育成(若い世代への引継ぎ)」のテーマで分科会の議論をもとに活発に意見交換し、今後の活動の方向として

- ①議論したまま事務方に任せるのではなく主体的に行動に移すことが重要との認識を共有し、
- ②本部事務局には、出席者に会議の内容をまとめ報告し、さらに議論したことを役員・会員に報告し共有することを求め了承を得た。

具体的な提案については、取り組み可能な次のことから実施していくことを申し合わせた。

- ①全国会議出席者のネットワーク作り(メールでの意見交換、情報交換、各支部事業の相互協力)
※すでにネットワークはほぼ整備済み。青連協中心にどう活かしていくか。
- ②語り部事業の推進と工夫
- ③後継者拡大のため、家族会費の設定について各支部に持ち帰り検討のうえ、理事懇談会等で検討する。



青年部役員会 11/15 別海

- 【報告】○後継者活動促進全国会議・セミナー報告
○語り部派遣事業報告 ○青連協事業報告

【協議事項】

- 別海町ポータルサイト構築事業への参画と青年部HPの移行について

別海町よりこの春「北方領土ポータルサイト構築事業」取り組みへの協力要請がありました。H8年5月に開設した青年部HPは別海町ポータルサイトに移行し、千島連盟支部青年部活動ブログとして衣替えします。資料は町と協力して収集・整理を行い12月にも運用開始の予定です。北方領土が見えるウェブカメラが設置されています。

- 会員の加入促進と会費について

10月に開催した後継者全国会議でも議論にのぼり持ち帰り検討することとなった。現在元島民は減少の一途を辿っており会員の拡大が必須であることから、例えば就業していない学生など、準会員もしくは家族会費の別途設定などできないか、支部役員会でも検討協議してほしい等の意見が出た。

中央アピール行動(北方領土返還要求行進) 12/1 東京

12月1日の中央アピール行動(北方領土返還要求行進)には支部から支部長と青年部長の2名参加を予定していましたが、町より更に2名推薦依頼があり元島民の田端前副支部長、青年部荒木理事(事務協力)と推進員が参加することになりました。

故郷国後島(東沸、中ノ古丹)を訪ねて 8/29~9/1 自由訪問

参加された佐野団長、田端さんより寄稿いただきました。

本年度最後の第4回自由訪問団に参加し故郷国後島(東沸、中ノ古丹)を訪ね、感慨深い三泊四日の船旅を終え9月1日予定通り根室港に帰港しました。

心配された天候も一日目には若干の雨にあたりましたが、その後は海も概ね平常で天候には恵まれたとあってよいと思います。船内も和気あいあいと団員皆様が協力し合い、無事寄港でき団員皆様に深く感謝いたします。

私は1912年(平成4年)10月、ビザなし訪問で古釜布、東沸を訪問しており、今回十六年ぶりに生まれ育った東沸を再度訪ねることができました。

十六年ぶりに見る古釜布は、ロシア経済の発展が国後島にも波及し、島民の生活水準は格段に向上しつつあることを強く認識いたしました。

インフラ整備も日本には及ばないものの、かなり政府が力をいれて整備を進めており、多くのロシア島民の明るい笑顔が印象的でありました。

古釜布に比較して、東沸や中ノ古丹は住む人もなく、荒廃し海岸の侵食が進み淋しい限りでありました。

今回の訪問で強く印象に残ったことは、一点は島の整備が急ピッチで進められていることで、港の整備、電源開発そして空港の整備、幹線道路など投資が行なわれている事実。

二点目は今回の訪問団に若い後継者十二名が参加し進んで高齢者の介助、荷物の運搬、墓標の陸揚げなど積極的に協力する姿をみて、深い感銘を受けたことである。

これからも積極的に二世三世を増や、それが北方領土返還運動の力強い中核になることを確信いたしました。

元島民は高齢化が進み、新しい船の建造も実施されることになっていますが、船での訪問には介助も限界があり、空路の開発も進めるべきではないかと思えます。

私はこれからも生まれ育った国後島を忘れることなく、北方領土返還運動に少しでも役に立つよう努力を続けたいと決意を新たにしました。

今回の訪問団に同行して、大変お世話になりました国の機関、道庁、根室支庁、そして千島連盟の皆さん、通訳さん、「ロサ・ルゴサ」船長さんはじめ乗組員の皆様に感謝し報告といたします。

佐野

1.東沸～ 30日午前7時30分古釜布上陸。陸路東沸まで山道を縦断して約1時間、車はすべて日本製で四輪工藤の大型乗用中古車23台のオンパレード。友人2名と14号車へ(40代前半の美人ママさんドライバー)運転がぎこちない。昔の美男子3名が乗ったせい。道中霧が濃く視界が悪い。

道幅広く小石を敷き詰め山砂で整備。平坦な素晴らしい一本道である。東沸は母の実家があり私も数日間過ごしたことがあるのでうろ覚えではあるが、川沿いにも住居が建ち並びハマナスの群生が続いていた記憶がある。海岸道はもちろん住居は海の中。墓地は裏山にあり全員参拝合掌する。眼下にポイント沼があり、丹頂鶴が二羽戯れていた。東沸川橋下では魚の群れが泳いでいる。明らかに斑点があり中型のアメマスだが誰も信用してくれない。2年魚の鮭としておこう。

2.中ノ古丹～ 翌30日は波ひとつない油凧。7時30分天馬船で前浜に上陸する。平成18年ポンキナシリに来たときは波もなく、3年生まで通った作喜国民学校周辺の散策、墓標の建立、墓参はできたが作万別、ムニカラシベツ方面は岬が波に洗われ天馬船で向かうも丘波で生まれ育った地点まで約5km海岸線沿いに400m沖合で断念し無念さが残っている。

中ノ古丹からラウスの岬を越え約3kmに我家があり、途中2km足らずのところに川が流れ大きな滝があるはずである。幼いとき釣りをしたり川遊びをしたことが今の事のように思い出される。女性通訳とロシア人ハンター(自然保護官)を伴い10名程が岬に向かっている。

作万別出身の川畑、中野、竹中の三君に声をかけ岬に向かう。道中大きな玉石だらけで昔あった石垣は跡形もなく道路などもちろんない。岬を越えると遥かに我家のまん前にあった大きな岩がみえる。一瞬身震いがした。一中略一

東沸の中谷さんが私につきあってくれハンターと3名で進み眼前に見える川まで約300m、我家まで1.3kmあたりで足が疲れた。ハンターが川を渡してくれると手振りで進めてくれたが、辞退すると私に持っている銃を渡し私のカメラで写真を撮ってくれた。昔釣りをした岩場で幼年期のことを思いながら一時を過ごす。一中略一

帰路、船など着かない岩場まで天馬船が迎えに来てくれた。本当に油凧で海底の岩場もはっきり見える。通訳も含め10名程で中ノ古丹前浜に着く。通訳さんが私の心情を察してこんな凧には二度とめぐり合えないかもしれない。行きたい人があれば本船の船長さんに交渉してみようと、私も作万別出身者8名を募り本船と電話で交渉してもらったが予定外のコースということで断念せざるを得なかった。非常に残念であったがこれも仕方のないことと諦め、再び作万別、ムニカラシベツが訪問地になり油凧であることを期待して帰路に着いた。田端

報道から

11月22日の日ロ首脳会談～日露関係では首脳レベルの政治対話を来年集中的に行なう。

プーチン大統領が来年初めに来日、日程は外交ルートで確定する。麻生総理は「メドベージェフ大統領は福田首相との会談で北方領土問題解決に向け前進させる考えを示したが、事務レベルの交渉に反映していない」とし、メ大統領は「次世代に解決を委ねる考えはない。どの国でも官僚の抵抗は存在するが首脳の善意と政治的意思で解決できる」と応えた。ロシア側随行員はロ大統領の発言にざわめきが起こったという。一方そうした考えは既存の文書から引き出されなければならないとも述べた。(08.11.24 読売)

あとがき

- ★ 11月6日に推進員会議が開かれ、H20年上半期だけでも連盟全体で64名の元島民が何らかの理由で退会あるいは亡くなっているという報告がありました。後継者拡大と後継者事業の推進が重要課題です。また語り部事業は登録制をとっているが、全国的な活動の場は決して多くなく地域では非積極的に取り組んでほしいと事務局からの要望もありました。手本となるビデオ等があればという講習会参加者の声を伝えました。
- ★ 私事で恐縮ですがものもらいを悪化させ更に風邪をひいてしまい、病院通いで発行がすっかり遅れてしまいました。皆さんこの時期健康にご留意を。手当てはお早めに。(A)